目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第52号　2011年8月

発行人：大野　利幸　編集長：地田　博昌　事務局長：小杉　哲

事務局：〒152－0023　目黒区八雲4－9－14　Tel 090－7825－6270

第12回　定時総会開催

2011年7月17日（日）、目黒雅叙園において、来賓５名、会員及び家族78名、合計83名出席のもと、目黒稲門会第12回定時総会が開催された。

石川智子幹事の司会で、第１部定時総会の開会となり、冒頭、この１年に亡くなられた稲門会校友と東日本大震災の犠牲者に黙祷が捧げられた。続いて５名の来賓をご紹介した。次に大野会長より、来賓並びに先輩役員への感謝が述べられ、今後の発展を期する挨拶があった。（別掲）

ここで議長の選出に移り、横山副会長が選ばれて議長席に就き、司会より会員総数164名中、委任状を含め125名が出席である旨が報告され、議事に入った。

(1) 22年度事業報告、(2) 22年度決算報告、(3) 監査報告、(4) 23年度事業計画案、(5) 23年度予算案について、吉田幹事長、梶会計幹事、林田監査役より報告、提案され、いずれも異議なく了承された。(6) 会則の改訂について、吉田幹事長より説明があり、別掲の通り承認された。(7) 新部会の立ち上げについて、『ボランティア活動推進部会』の稲垣部会長、『若木会』の石川部会長よりそれぞれ簡単な説明があり、既に役員会で決定している諸活動について、正式に承認を受けた。

大野会長が、「部会等の活動が目黒稲門会そのもの」（前回総会での挨拶）との方針のもとに進めてきた新部会の立ち上げが実現した形となった。

(8) 23年度役員構成について、吉田幹事長より説明があり、誤記載を訂正の上、原案通り了承された。

横山議長は、全ての議案に改めて拍手による賛同を求め、議事は終了した。

続いて来賓を代表して、島田陽一・早稲田大学理事にご挨拶を賜った。本学の奨学金は他大学と比較しても充実しており、「めざせ都の西北・奨学金」など受験生を対象としたものは早稲田大学で初めて制度化したとのこと。現在、中野に学生の住居施設を作っており、これからは教育環境の整備も重要との話があった。以上で第１部定時総会は終了した。

５分間の休憩ののち、午後５時20分、引き続き石川智子幹事の司会で第２部懇親会の開会が告げられ、はじめに来賓よりご挨拶を賜った。

柴田健治・早稲田大学地域担当副部長は、125周年を機に「オックスブリッジ奨学金」など、オックスフォード大、ケンブリッジ大へ進む留学生を支える制度もできた。高麗大学の試合へ早稲田の応援団を送って同大学を応援する企画も成功し、世界の早稲田として認識されるようになった、と挨拶。

青木英二・目黒区長は、東日本大震災に関連して、職員が目黒区と関係の深い気仙沼市、角田市に派遣され支援に当っている事、放射線量の測定を区内で行っている事を報告された。

続いて乾杯に移り、今回は、新任の笠谷興一朗幹事の若々しい発声で乾杯、歓談に入った。歓談が進んだところで、司会より、日常活動の各部会と部会長の紹介があった。次いで、恒例の初参加会員紹介があり、壇上にて司会より紹介、各自一言自己紹介があった。（成田隆一、皆川克正、猪名川一雄、大内秀明の各氏）

再び歓談が盛り上がったところで、司会は来賓の佐藤稲門祭奨学金記念品販売本部長を紹介。同本部長は、当会の担当者と共に場内をPRに回り、記念グッズの販売に、皆様のご協力を賜った。時間も経過し、松田哲也会員のリードで校歌を斉唱。「ガンバレ　ガンバレ東北」のエールで被災者を支援した。中締めは、林田雅敏相談役の発声で午後7時、お開きとなった。

会長挨拶

目黒稲門会会長　大野利幸

暑い中、来賓、会員多数のご参加に感謝する。平成11年1月眞仁田会長のもと、臨時総会を以て発足し、12回目の総会を迎えた。12年間、大先輩が推進してきた活動を継続しつつ、若手の入会推進活動などを盛り上げようと、大まかに2つの新しい取り組みをした。本年1月より、目黒稲門会の会則には地域貢献が入っており、これをどう推進するかを検討してきた。同時に大震災が起こり、義援金を集めて目黒区の友好都市＝気仙沼市に送ることと、ポリオワクチンを東南アジア諸国に送るために会合の都度100円を集めることに取り組んだ。もうひとつは、若手会を作り、名称は「若木会」として部会と同レベルで推進していくこと。この2つを中心に、各部会を盛り上げていきたい。

総会初参加会員

左から大内秀明、皆川克正、成田隆一、猪名川一雄の各氏

会則改訂

（要旨）

これまでの総会で決議された会則改訂については、その都度、会則条文の改訂を行ってきたが、今総会で、総体的見地から、あらためて条文の整理・修正、過去の改訂の経緯を整理し、総会で承認された。

（改訂の内容）

1. 条文に副事務局長を追加、監事を監査役に改訂
2. 副幹事長の人数を若干名に改訂
3. 初代会長職の任期の特記箇所を削除
4. 役員の職務に副事務局長の職務を追加
5. 顧問・相談役の役割を追加
6. 会計口座名をゆうちょ銀行目黒店に修正

出席者名簿（敬称略）

（来賓）

青木英二・目黒区長
島田陽一・早稲田大学理事
柴田健治・早稲田大学地域担当副部長
廣瀬　剛・早稲田大学法務研究科事務長
佐藤裕彦・稲門祭奨学金記念品販売本部長

（会員・家族：五十音順）

浅海敏之、阿部喜久雄、荒瀬修一郎、安藤　孝、安藤虎雄、石川智子、石川純子（母上）、市瀬一江、市瀬達夫、稲垣博信、猪名川一雄、井村正陽、岩崎春雄、岩崎正夫、岩瀬　暁、鵜野洋治、海口昭治、大内秀明、大久保健治、大杉邦雄、大野利幸、大野幸子（夫人）、小倉利允、影山信輝、笠谷興一朗、梶　恵作、柏木　博、金子富喜雄、金子弥生（夫人）川井信義、川崎真樹子、河村晋彦、小池早苗、郡山弘文、郡山富子（夫人）、小杉　哲、後藤克彦、桜井輝隆、佐々木芳子、佐藤喜孝、嶋田勝彦、島田久家、鈴木政雄、田島順一郎、田畑　繁、地田博昌、千野逸平、土川俊雄、外岡　明、外岡ルリ子（夫人）、中上美代子、長島清志、中島侑三、永田耕治、中西千可子、中西元樹、成田隆一、服部尚彦、林田雅敏、樋口定廣、樋口俊彦、堀井良造、牧野武夫、松尾洋一、松田哲也、眞仁田勉、水野弘文、皆川克正、村上　柾、村田信之、森家一三、保井　正、横山　大、吉田成孝、吉田博行、吉本政治、渡邉三郎、大橋ヒデ子（友人）

目黒稲門会 第12期 決算報告書

（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

<収 入>　　単位：円

科 目	決 算	備 考
前期繰越金	788, 529	
年 会 費	707, 500	5,000×149名＝745,000　2,500×5名＝12,500 過年度 10,000×1名＝10,000
総 会 収 入	621, 000	参加 61 名
新年会収入	674, 000	参加 65 名
組織強化費	135, 000	早大校友会
雑 収 入	227	利息
合 計	2, 986, 256	

<支 出>

科 目	決 算	備 考
総 会 費	529, 217	会場費（目黒雅叙園）他
新年会費	595, 997	会場費（目黒雅叙園）他
会報費	462, 840	会報制作費、印刷費
部会運営費	120, 000	囲碁・ウォーキング・カラオケ・グルメ・ゴルフ・俳句・美術歴史・麻雀・旅行・よん月・会報編集、事務局
会議費	134, 604	幹議員年会費、役員会、編集会議・会議室借料
交際費	125, 235	東京 23 区支部幹事会等
通信費	116, 505	会報発送費他
事務用品費	177, 082	角封筒印刷代他
消耗器具備品	29, 925	目黒稲門会のぼり及びポール（2組）
ホームページ経費	36, 528	会費振込み手数料
雑 費	43, 100	会費振込み手数料
翌期繰越金	615, 023	
合 計	2, 986, 256	

注：次期繰越金内訳　・三菱東京UFJ銀行　学習大学駅前支店　562,109円
・三菱東京UFJ銀行　中目黒支店　16,033円
・ゆうちょ銀行　目黒店　16,881円
合計　615,023円

監査報告書

私たち会計監事は、平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第12期会計年度の会計報告を監査致しました結果、適正かつ正確であることを認めます。

平成23年4月25日

目黒稲門会　会計監事　島田　久家

会計監事　林田　雅敏

目黒稲門会 第13期予算

（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

<収 入>　　単位：円

科 目	金 額	備 考
前期繰越金	615,023	
年 会 費	770,000	※5,000×154名
総 会 収 入	600,000	※8,000×75名
新年会収入	700,000	※10,000×70名
組織強化補助費	135,000	早稲田大学校友会
雑 収 入	0	
合 計	2,820,023	

<支 出>

科 目	金 額	備 考
総 会 費	600,000	会場費（目黒雅叙園）他
新 年 会 費	600,000	〃
会報発行費	400,000	会報印刷代350,000＋予備費50,000
部会運営費	70,000	囲碁・ウォーキング・カラオケ・グルメ・ゴルフ・俳句・美術歴史・麻雀・旅行・会報編集・よん月会・事務局 ※ボランティア準備委員会・若木会を追加
会 議 費	95,000	役員会等の会議室借料、幹議員会費
交 際 費	155,000	23区支部幹事会・WASEDAサポーターズ倶楽部会費等
通 信 費	120,000	会報発送費等
事務用品費	150,000	業務用封筒、事務消耗品
ホームページ費	36,000	ニフティー使用料
雑 費	45,000	振込費用等（会員名簿印刷費含む）
次期繰越金	549,023	
合 計	2,820,023	

＊1 新年会より参加費は会員10,000円とする。
＊2 交際費にWASEDAサポーターズ倶楽部会費30,000円を計上。
申請条件が承認されれば、組織強化費が50,000円の増額になり、予算上の次期繰越金は569,023円となる。
＊3 部会運営費は1部会5,000円×14＝70,000円とする。
「ボランティア準備委員会」・「若木会」を追加。
＊4 幹議員会費の会の負担額は1人20,000円×4名分＝80,000円とする。

各部会からの案内・報告

俳句部会

（前号より続く）

「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」　芭蕉

皆さんご存知の方も多いと思いますが、大阪の地で51歳の生涯を閉じた芭蕉の辞世の句です。芭蕉はこの地で死を迎えるとは全く思っていなかったようで、九州への旅を志しておりました。この枯野はおそらく夢の中で九州の広大な枯野を思っていたのでしょう。

問題は芭蕉の没後、たちまちにして蕉風が崩壊したという事実でございます。多分芭蕉の教えに数人の弟子を除いてはついていけなかったのでしょう。

その最大の理由は芭蕉が自ら書いた俳論がなかった事によると考えます。芭蕉の教えは没後高弟により書かれましたが、その中でも向井去来の「去来抄」「旅寝論」、服部土芳（はっとりどほう）の「三冊子」等が著名でありますが、所詮内容は間接的なものでした。

（以下次号）

第30回（2011年7月度）「萩句会作品」

安藤　虎酔　　旬といふ茄子の顔のありにけり
川井　素山　　井戸端に浮かぶなすびや京町屋
保井　寶正　　短夜や時の鐘に書閉じにけり
米田　文彦　　麻疹（はしか）病み一人の膳の茄子の色
佐々木彩女　　風絶へて我が身一つの置きどころ
青木　英男　　泉州の畑を思ひ茄子を食み
佐久間　喬　　駅出口待ち人の来ぬ暑さかな
牧野　里山　　茄子漬を酒の肴に赤提灯
佐藤　喜仙　　葛切や吉野は奥の深き山

俳句部会長　　佐藤喜孝

カラオケ部会

3月11日（金）は、カラオケ部会3月の例会日でした。目黒駅でバスを降りた直後の激しい揺れ・・・。西口ロータリーの真ん中で両脚を踏ん張って、揺れる周囲のビルを見つめていました。

あれから間もなく半年になろうとしていますが、当時の強烈な感触ははっきりと残っています。

カラオケ定例会、4月は大変賑やかでしたが、それ以降の3回は少々寂しい会になっています。8月は夏季休会とし、また9月（9日）から毎月開催いたします。

しばらくぶりの方も、初めての方も、ぜひご来場ください。お待ちしています。

カラオケ部会長　　田畑　繁

囲碁部会

第11回「オール早稲田囲碁祭」開催

去る6月4日（土）日本棋院市ヶ谷本院において早稲田大学の卒業生、教職員、囲碁会ＯＢ・現役が一堂に会する囲碁大会が280名の参加を得て盛大に開催された。

今回は、東日本大震災チャリティー大会として、校友女流棋士の青葉かおり四段、下坂美織初段からも色紙を特別に頂きチャリティーの記念品とした。

地域稲門会48チームによる団体戦、級位者クラスの個人戦22名で行なわれた。

目黒の戦績以下のとおり。

目黒Ａ	多摩 ２－３	調布 ０－５	北 ３－２	教職員 ５－０	成績 ２－２	順位 5
目黒Ｂ	足立Ｂ ３－２	練馬Ｂ ２－３	逗葉 ２－３	習志野 ２－３	成績 １－３	順位 6

囲碁部会長　　保井　正

ゴルフ部会

６月24日（金曜日）第28回ゴルフ部会を静岡県の富士ヘルスカントリークラブにおいて開催しました。

天気にも恵まれ、富士の裾野に広がる、ゆったりと広い、フラットなコースで28名の参加者が一日和やかにプレーを楽しみました。

優勝は小池早苗氏、２位は青柳勝氏、３位は奥山哲郎氏、ベスグロは浅見敏之氏の85でした。

次回は10月末を予定しております。奮ってご参加ください。

ゴルフ部会長　　大杉邦雄

美術・歴史鑑賞部会

今年も話題の大きな美術展を鑑賞しています。第32回は６月１日（水曜・曇り）午前９時30分、上野にある国立西洋美術館「レンブラント　光の探求／闇の誘惑」展に。「黒い版画」、「淡い色の紙」、「キアロスクーロ」と言う三つの言葉を中心にして構成され、「羊飼いへのお告げ」、「石の手摺りにもたれる自画像」等の代表的な版画（約110点）や「アトリエの画家」、「音楽を奏でる人々」等の油絵（約15点）を楽しみました。参加者16名、朝一番での入館で、ゆっくり鑑賞。その後、上野精養軒での名物のカレーライスを食べて解散。

第33回は８月３日（水曜）、六本木にある国立新美術館「ワシントン・ナショナル・ギャラリー」展の鑑賞会。印象派の代表画家･ゴッホ「自画像」、ルノワール「踊り子」、モネ「日傘の女性」、マネ「鉄道」等の作品（約83点）を鑑賞しました。13名参加。

次回の第34回は、秋に国立西洋美術館「プラド美術館所蔵　ゴヤ」展（10月22日～１月29日）を予定しています。プラドの誇るゴヤの真髄を一堂に。40年ぶり来日の「着衣のマハ」等を鑑賞します。

美術・歴史鑑賞部会長　　後藤克彦

麻雀部会

（1）第44回定例目黒麻雀大会が６月19日（日）、武蔵小山の麻雀クラブ　サンにて15名参加し親睦を深めた競技の結果、優勝は小倉氏、準優勝は中村氏、３位は樋口氏となりました。

（2）第30回３区連合麻雀大会を８月27日（土）渋谷、麻雀クラブスリーハンドレッドにおいて開催。

麻雀部会長　　鵜野洋治

ウォーキング部会

暑い日が続いていますが、こういう時こそ健康のため元気に歩きましょう。

実施報告

６月例会　金町から水元公園　　９名参加
　　水菖蒲を愛でながら閘門まで

７月例会　三浦方面から鎌倉の入口・名越切通しを
　　歩く　13名参加

今後の予定

９月例会　荒々しい岸壁が連なる昔日の色濃い朝比奈
　　切通し　約２キロ。
　　日時　９月29日（木）　午後１時集合
　　場所　JR横須賀線鎌倉駅改札外

10月例会　荒崎、潮騒の道から花畑広がるソレイユの
　　丘へ　　約５キロ。
　　日時　10月28日（金）　午後１時集合
　　場所　京浜急行三崎口駅改札外

11月例会　鬼平を歩く　第２弾
　　別掲案内参照　約3.5キロ

参加予定の方は牧野まで連絡ください

ウォーキング部会長　　牧野武夫

☆部会特別企画「第２回　鬼平犯科帳を歩く」

日時　11月18日（金）午後１時集合　（19日から変更）

場所　ＪＲ京浜東北線王子駅北口改札外

王子では王子神社、王子稲荷、名主の滝公園を歩きます。その後、王子駅前から東京で唯一残る都電荒川線で「心のふるさと　われらが母校」の地・早稲田へと向かいます。乗車時間は約30分、ほとんどの区間で専用軌道上を走りますので、車窓からの景色をお楽しみください。

早稲田では甘泉園、水稲荷、亮朝院・七面堂、高田馬場跡、穴八幡を歩き、午後４時頃から「高田牧舎」で懇親会をおこないます。懇親会の出欠はご自由です。なお、今回は事前に作品を読んでいただく必要はありません。

定員は20名です。定員に達し次第締め切らせていただきます。お申し込みはウォーキング部会の牧野部会長までお願いします。（連絡先は上記を参照）

猪名川一雄（昭和45年　政経）

若木会

おかげさまで７月の目黒稲門会総会において、若木会は正式に部会として発足致しました。

20代～40代の若手世代で親睦を深め、目黒稲門会の一員として、仲良く発展していく趣旨です。

５年ほど前、若手メンバーがポツンと寂しい思いしないようにと、ささやかな願いでスタートしました。歴代の会長、幹事長はじめ幾多の先輩方から励ましを頂き、さらには「若木会」の新名称を頂いて、仲良く伸び伸びと活動しております。

もとより、まずは早稲田出身者として、社会の第一線でお役に立つ途上にある私たちです。

先輩方のように社会で羽ばたき、よき人間関係を築く途上で、目黒稲門会という温かな場所を得られてうれしく思います。

「若木のようにのびのびと」成長して参りますのでこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

なお先輩方と年２回ほど開催する「心の若木会」は「心は青年」であることが参加資格です。「青年」の皆様、奮ってご参加ください。

＜最近の活動＞

6/25土曜日に、恵比寿にて近隣各区の若手稲門会と交流会を行いました。各区の若手43名が参加し、目黒は渋谷とともに運営幹事をつとめたほか、新入会員の成田さんを含む７人が参加、楽しい集いになりました。

若木会部会長　　石川智子

ボランティア活動推進部会

目黒稲門会の会則に掲げている、ボランティア活動を実行しようとする機運が高まり、準備期間を経てこの度「ボランティア活動推進部会」が立ち上がりました。

活動は継続的にとの思いから、東南アジア諸国のポリオ（小児まひ、急性灰白髄炎）撲滅運動を支援するためワクチン購入支援の募金から始めました。各部会開催時に7名以上の会員がお集まり戴いた際、お一人100円（ワクチン５本分）の募金をお願いしています。さらに今般の「東日本大震災」が発生し、あわせてすぐに災害義援金の募金もスタートしました。義援金は、東日本大震災に　101,300円、ポリオ、ワクチン購入に44,380円が集まっています。

ポリオワクチン購入支援金は、継続的に募金活動を行い、支援団体であるNPO法人「世界のこどもにワクチンを日本委員会」（JCV）へ寄付をしていく計画です。

会員の皆様には、各部会活動へ積極的な参加と、募金活動のご理解、ご協力、またボランティア活動へのご提案やご支援をお願い致します。

ボランティア活動推進部会長　　稲垣博信

会員の広場

不完全燃焼な気持ちが切っ掛け

永井正孝（昭和43年　法）

小生の亡父は還暦を過ぎてから、何を思ったか当時自由が丘に住んでおられた高名な画家の下に通い始めた。我が家にはいつの間にか、ビーナスやシーザーの石膏像が置かれ、木炭や鉛筆に汚れた画用紙や消しゴム代わりのパンくずが散らばっていた。本棚には「近代日本絵画全集」が並び、応接間は一端の画家のアトリエのごとく、イーゼルと椅子がどんと真ん中に立っていた。加えて建築士の長兄も、彫塑を趣味にしており、テレピン油のにおいと粘土くずに、おそらく小生は染まっていたのかもしれない。

法学部にいながら美学を聴講し、竹橋の近代美術館の友の会に入り、ヘンリー・ムアやブランクーシ、モジリアニなどの作品を追いかけていた。

早稲田に在籍していた60年代後半は、所謂「大学紛争」の真っ只中であり、勉学に励むような雰囲気ではなかった。小生もご多分に漏れず「なんとなく不完全燃焼な気持ち」で4年間を過ごしてしまった。

卒業後はメーカーに勤務し、約42年間は典型的な猛烈サラリーマンで、徹夜や休日出勤は当たり前の時代を過ごしていた。「オイルショック」以降には、管理部門に配属されたのが運の尽きで、グループ会社の整理や開発製品の事業化（体のいい後始末）に20年近く携わった結果、ストレスが原因の狭心症の発作を起こし、いつも「ニトロ」をポケットに忍ばせて、降圧剤など数種類の薬を飲み続け、血圧、脈拍を測りながらの生活を続けてきた。

その後、核燃料製造会社の管理部門担当役員に就くや、同業企業に「臨界事故」が発生し、この煽りで監督官庁との対応、社内管理体制の整備に忙殺され、「ニトロ」と「御守り」を離せぬ生活が続いた。

ところが長年の「宮仕え」の終点を意識し始めた頃、この「なんとなく不完全燃焼な気持ち」を解きほぐしたくなった。偶々ネットサーフィンで見つけた母校の博物館学芸員夏期集中講座の募集案内に何か惹かれるものがあった。会社員生活の終わり頃の2009年にちょっと長めの夏休みと称し、母校文学部の博物館学芸員講座に応募した。

書類選考を経て、40数年ぶりの母校での受講は、懐かしさと同時に時代の変化を肌で感じたものだった。現役生や若い方々と机を並べ、猛暑の中５週間の連続授業に、久しぶりに充実した日々を過ごした。

過去の不勉強を反面教師として、開講前に参考図書を10数冊読み、一通りの予習と毎日の復習を兼ねたレジュメ作りを続けたが、他方毎日教室で目的や立場、年齢の異なる受講生といろいろな話が出来ることが何よりも刺激的であった。

最も楽しい授業は、文化財の保存修復実習で、鎌倉初期の仏像（阿弥陀如来像）の分解・水洗い・漆の除去・虫食い跡の充填さらには仏像のスケッチ、記録写真の撮影など、普段では体験する事の無い内容であった。仏像頭部の内側や胴内、台座にそれぞれの修復時の仏師の銘文があり、時代により丁寧な修復や、雑な修復跡が残り、それぞれの修復を行った人々の姿が想像できたことであった。

幸いこの夏期講座で博物館学芸員資格を取得できたが、この経験が美術鑑賞の際、単なる鑑賞する側の視点から今は展示する側の意図、工夫、思いを先ず意識することに気づかされる自分に驚いている。

昨年末より、月１回、川崎市市民ミュージアムで寄贈された８ミリフィルムのデジタル化のお手伝いを前述集中講座の履修生仲間と続けている。1960年代に始まったアマチュア写真家が撮影した８ミリフィルムは40～50年も経つと劣化が始まり、貴重な記録が段々失われてしまう時期になっている。これらのひとつでも後世に残せればと、ボランティア活動を続けている。

国宝見学の旅

矢杉正明（昭和30年　理工）

会員名簿の趣味欄に「ゴルフ」と「国宝見学の旅」と書きましたが、その経緯を紹介します。

昭和24年高校の修学旅行で奈良・京都に行きましたが、法隆寺の金堂が焼失した直後で、翌年には見学した金閣寺が焼失し、国宝二大消失で「国宝」が頭の隅に残っていました。

戦後10年目に入社して毎日忙がしく働いて居りましたが、唯一の楽しみが仲間と会社の伊東寮に行き温泉に入って徹夜麻雀をすることでした。今考えれば元気だったとしか言えませんが、土曜日も５時まで仕事をして鈍行（各駅停車）に乗り、９時頃から朝まで麻雀をしてしばらく仮眠をとってから帰宅して、月曜日は６時半まえには家を出ました。寮の海の幸の夕食・朝食がおいしく、月１・２回は行きました。週休２日になってからは課会の旅行、会社の早稲田卒の仲間の旅行などしていました。

55歳から大阪に単身赴任し新大阪駅の近くのマンションに住み、休みの日は朝、駅で新快速に乗れれば京都に、駄目なら難波から奈良に行き、最初は定期観光バスに乗ってお寺回りをして、良い寺だと後日に時間をかけゆっくりと拝見に行きました。

最初は建造物にしか興味がありませんでしたが、広隆寺の弥勒菩薩半跏像を見てその後は仏像も極力拝観するようにしました。弥勒菩薩のお顔の大きなパネル

をマンションの壁に飾り、毎日眺めていました。

仕事でいらいらしていても非常に心が落ち着きました。東京に帰ってからも１年に１回は広隆寺に行ってお会いしていました。

本社に帰る１年前に本屋で国宝一覧表を入手して調べて見ると、仏像の国宝第１号が広隆寺の弥勒菩薩であり、国宝の大半は関西にありその半分は見ていることに気付きました。仏教徒でない私は国宝を持っているお寺が由緒あるお寺と勝手に決めて、その寺院を全部回ろうと休みの日には、大阪・滋賀・和歌山・兵庫などを、その区域にある寺院を最寄の駅からタクシーで回りました。この時は後で後悔しましたが、近くにある国宝の拝殿本殿のある神社には寄りませんでした。

東京に帰ってからも、旅行は国宝を持っている寺院のある地方に行きました。高校のクラスメートに文化庁で仏像の国宝査定もしていた友人がおり、一覧表を見せたところ「私より多く見ていますね、今度福島の常勝寺の薬師如来三尊像が東北地方で始めて国宝（仏像）になった」と言われ、更に張り切って日曜日に新幹線にタクシーを飛ばし行って来ました。

しかし湖東三山の見学の時バスガイドの説明で、信長の焼き討ちのとき山の上なので僧侶が自ら小屋に火を付け信長軍が寺院が炎上したと下山して難を逃れたと言われるように、交通の不便な体力の必要なところが残りました。

しかし平成５年に21年に１日御開帳の和歌山県慈尊院の弥勒佛坐像を見ることが出来ず、平成７年から９年にかけて胃がん・胆のう・肝臓を傷めたので、平成26年のご開帳は絶対無理と考え、神社の国宝も行く先を選んできました。

しかし今年平成23年ゴルフも１泊２ラウンドの体力が維持されているので、あと３年後のご開帳、間に合いそうな気がしてきました。

「鬼平犯科帳を歩く」に参加して

村田信之（平成5年　政経）

70歳を超えているだろう老武士は、息子の敵討ちのために20年もの旅を続けてきた。今まさに機会到来、敵は駕籠に乗って橋を渡ってやってくる、植え込みに隠れたその老武士は肩を腰を、刀をつかんだ右手をぴくぴくさせながら、いまにも枝折戸を開けて通りへ飛び出そうとしている。

５月18日午後、ウォーキング部会特別企画「鬼平犯科帳を歩く　～本所・深川～」の参加諸先輩方はまさに、火付盗賊改方長官・長谷川平蔵の立ったところに立ち、鬼平の眼に写った情景を目の当たりにしていました。

案内役を務めていただいた猪名川一雄先輩の、お手製の資料を見ながら、池波正太郎『鬼平犯科帳』の「寒月六間堀」（文庫7巻）をなぞり歩きます。

「ちょうど今立っているところが六間堀です」（猪名川さん）今は墨田区立六間堀児童遊園になっている。

「そしてここが、五間堀。五間、つまり堀の幅はおよそ９メートルです」（同）同じく、五間堀公園。

地下鉄森下駅から始まり、弥勒寺、平蔵が飲み過ぎて泊まった「五鉄」の跡、お熊婆さんの「笹や」、植木屋「植半」など鬼平ワールドを通って、吉良邸跡。そこに向かう赤穂浪士が最初に渡った橋「一ッ目橋」。江島杉山神社に参って隅田川テラスでしばし休憩。

「寒月六間堀」のクライマックス場面である猿子橋跡から小名木川遊歩道へ。霊厳寺にたどり着いて、ちょうど森下駅から8000歩。深川江戸資料館と紀伊国屋文左衛門のお墓を巡って、いよいよお待ちかね、もうひとつの池波ワールドであるグルメの領域に。

清澄白河駅から地下鉄で門前仲町に移動して、うなぎの「かね松」。乾杯の生ビールはのどに冷たく、心地良い。名物のうなぎで鋭気を満たし、鬼平ワールドで英気を養えたウォーキングでした。

江戸名所図会「弥勒寺」

新入会員

大内秀明氏（昭和33年　文）
（中央町在住）
　会の存在は承知しておりましたが、高校の同窓会の方が多忙で、今日に至りました。大野会長とは区立６中時代の同窓という縁で、且つ亡父秀那（昭和５年文）、長男和也（昭和60年商）もという３代続いての生粋のワセダマンと自負しています。よろしくお願い致します。

成田隆一氏（平成７年　商）
（東が丘在住）
趣味：釣り、ゴルフ
　目黒区に住み始めてまだ１年強と短いですが、地域のことも学ばせていただきたいと思い、入会を希望いたしました。
赤坂で不動産鑑定評価と不動産・金融等のコンサルティング会社を経営しています。よろしくお願い致します。

皆川克正氏（平成８年　法:10年修士）
（大岡山在住）
趣味：ゴルフ、テニス、釣り
　３年前に目黒に引っ越してきて、目黒区永住を決めました。早稲田には高校時代から大学院まで長年お世話になってきたので、いつかは稲門会の活動に参加したいと思っていました。よろしくお願い致します。

校友会便り

７月９日（土）：2011年商議員会開催
（於：大隈講堂）
① 早稲田大学財務報告
② 2010年度商議員会決算報告
③ 2011年度商議員会予算案
④ 募金関係報告
⑤ 学事報告
等について報告・審議があった。
続いて、リーガロイヤルホテル東京に会場を移し
鎌田総長を交え、和やかに懇親会を開催。
出席者：大野会長、浅海相談役、吉田幹事長

≪参考≫　数字で見る早稲田

受験者数	115,515（2010年）	113,653（2011年）
学生数	53,585（2009年）	54,179（2010年）
教員数	6,558（2009年）	6,553（2010年）
職員数	1,025（2009年）	1,142（2010年）

（吉田　記）

事務局便り

義援金を目黒区経由気仙沼市へ寄贈

「東日本大震災」義援金募金は７月で募金活動を一端締め切りました。（総額10万円）
　７月27日（水）大野会長、幹事長、事務局長およびボランティア活動推進部会長の４名で目黒区庁舎を訪問し、目黒区の友好都市である宮城県気仙沼市の被災者支援の一部に役立てて戴くよう大野会長から青木区長に手渡されました。青木区長から、義援金への謝辞と気仙沼市の復興の現状説明等がありました。

ボランティア活動推進部会長　　稲垣博信

ＨＰ便り

　事務局への連絡はホームページから簡単に行えます。トップページの左端下部にある『お問い合せ』をクリックするとメール送信が出来ます。

（小杉　記）

編集後記

　今52号会報から、新しいスタッフで編集することになりました。
　目黒稲門会会報は、会員の皆様のご支援・ご協力とこれまで歴代編集に携わってこられた編集委員の方々のご尽力のおかげで、他区に誇れる立派な会報に育ってまいりました。
　これからも会員の皆様の交流の場、情報交換の場としての役割を担っていくと同時に、ますます親しまれる楽しい会報を目指してまいりたいと思っています。
　会員の皆様にはこれまで同様、よろしくご支援下さいますようお願い致します。楽しい投稿大歓迎です。ふるって御寄稿下さい。お待ちしています。
　新しい広報編集委員会メンバーをご紹介致します。

編集長	地田　博昌	昭和39年	政経
副編集長	田島順一郎	昭和49年	政経
委員	小杉　哲	昭和41年	理工
委員	吉本　政治	昭和41年	商
委員	吉田　博行	昭和42年	政経
委員	猪名川一雄	昭和45年	政経
委員	鈴木　尚子	平成５年	法
委員	石川　智子	平成７年	文

　どうぞよろしくお願い致します。

（地田　記）